

2024年8月6日
 近鉄不動産株式会社

あべのハルカス美術館 展覧会 「深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ」開催決定！

あべのハルカス美術館では、日本美術や西洋美術、現代アートなど多彩な展覧会を開催しています。

2024年は、7月6日より開催中の「あべのハルカス美術館開館10周年記念 広重 一摺の極一」に続き、10月より「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」、2025年は、1月より「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」、4月より「空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン」を開催予定です。（既報のとおり。詳細は別紙参照）このたび上記の展覧会に続き、新たに下記展覧会の開催が決定しましたのでお知らせいたします。

今後も、より魅力的な都市型美術館として多くのお客様にお越しいただけるよう運営してまいります。

「深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ」

会 期：2025年7月5日(土)～9月7日(日)

共 催：読売テレビ、読売新聞社

開催趣旨：金魚に魅せられ、創作を続ける美術作家・深堀隆介。透明樹脂にアクリル絵の具で何層にも重ねて描く「2.5Dペインティング」とも称される斬新な技法により立体感のある金魚を作り出してきました。その作品は、まるで目の前に水があり、命のある美しい金魚が泳いでいるかのような迫真性を観る者に与えます。水面の揺らぎの中にあるのは虚か実か、幻か現か。深堀は自身の作品をまるで生きているかのように「見せる」一方で、それが命を持たない絵の具の積層であるという事実から対峙します。深堀の作品には、幻影と物質の同居というリアリズムにおける根源的な命題が横たわっているのです。

本展では初期の立体作品から、絵画、映像、大規模なインスタレーションなど新作を含む作品約300点を一挙ご紹介。深堀が一貫して取り組んできた金魚の造形にあらためて光をあて、描くこと、リアルであることに対する作家の思想に迫る展覧会です。虚実の狭間をたゆたうように私たちを誘う、〈金魚繚乱〉の世界をご覧ください。



①《金魚酒 命名 鈴夏(すずなつ)》2021年



②《百濟》2004年



③《大渦》2010年

※上記①～③の画像データは貸出が可能です。ご希望の方はお問合せください。

また、事前に原稿の確認が必要になります。

(画像の使用は、本展覧会をご紹介いただく媒体に限ります。ご使用後は破棄をお願いします。)

※開催1ヶ月前を目処に詳細なプレスリリースを皆様のもとへお送りします。

あべのハルカス美術館 2024年7月～2025年9月 展覧会ラインアップ

会期	2024年7月6日(土) ～ 9月1日(日)	10月12日(土) ～ 2025年1月5日(日)	1月18日(土) ～ 3月16日(日)	4月5日(土) ～ 6月22日(日)	7月5日(土) ～ 9月7日(日)
展覧会名	あべのハルカス美術館開館10周年記念 ひろ 重 <small>ひろ 重</small> 一摺の極一	印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵	生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界	空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン	深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ

【詳細】

あべのハルカス美術館開館10周年記念 ひろ 重 ひろ 重 一摺の極一

会 期：2024年7月6日(土)～9月1日(日)

共 催：NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿、朝日新聞社

開催趣旨：ひろ重は、北斎とともに浮世絵版画の世界に風景画と花鳥画のジャンルを確立したことで高い評価を得ています。国民的な浮世絵師ともいえる知名度と人気を誇るひろ重ですが、大規模かつ総合的な展覧会は近年開催されていません。そこで、初期から晩年までの画業を総覧し、ひろ重作品のすばらしさを再確認していただくとともに、あまり知られていない魅力的な作品を紹介し、ひろ重のトータルなイメージを再構築いたします。



名所江戸百景 大はしあたけの夕立(舟二艘)
大判錦絵 個人蔵



東海道五拾三次之内(保永堂版) 庄野
横大判錦絵
ジョルジュ・レスコヴィッチ氏蔵
©Fundacja Jerzego Leskowicza
©Michal Grychowski (AMG)

印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵

会 期：2024年10月12日(土)～2025年1月5日(日)

共 催：読売テレビ、産経新聞社

開催趣旨：19世紀後半、モネへの酷評に始まるも西洋美術の伝統を覆した印象派。フランスに留学していた画家たちは、革新的な表現手法を持ち帰り各国で独自に展開していきました。本展では、1898年にアメリカ・ボストン近郊に開館して以来、早くから印象派の作品を収集してきたウスター美術館の所蔵品を中心に出品。とくにアメリカにおける印象派の諸相に注目し、その衝撃と影響をたどります。



クロード・モネ《睡蓮》1908年 油彩、カンヴァス ウスター美術館蔵
Museum Purchase, 1910.26



チャイルド・ハッサム《花摘み、フランス式庭園にて》1888年 油彩、カンヴァス
ウスター美術館蔵
Theodore T. and Mary G. Ellis Collection, 1940.87

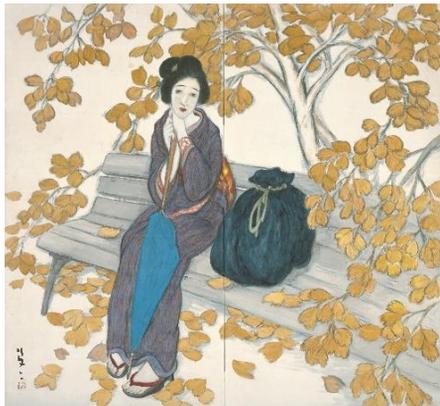
This exhibition was organized by the Worcester Art Museum

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

会 期：2025年1月18日(土)～3月16日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：大正浪漫の象徴であり、「夢二式美人」で一世を風靡した竹久夢二(1884-1934)は、明治から昭和前期にいたる日本近代芸術・文化の円熟した魅力をもっとも醸し出した芸術家でした。絵画だけでなく雑誌や楽譜、本の装幀、日用品のデザインなど多岐にわたるジャンルで活躍した夢二の作品は、今もなお私たちを惹きつけてやみません。本展は、夢二の生誕140年を記念し、最新の研究に基づく新たな視点から選んだ作品や資料約180点により、夢二の画業と魅力を改めてひもときます。



《秋のいこい》
1920(大正9)年 紙本着色
夢二郷土美術館蔵



《西海岸の裸婦》
1931-32(昭和6-7)年 油彩、カンヴァス
夢二郷土美術館蔵



《アマリリス》
1919(大正8)年頃 油彩、カンヴァス
夢二郷土美術館蔵

空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン

会 期：2025年4月5日(土)～6月22日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開 催 趣 旨：ジャン=ミッシェル・フォロン (Jean-Michel Folon 1934-2005) は、ベルギーが生んだユニークなアーティストです。詩的でユーモアに富み、やわらかな色彩と軽やかなタッチで表現されたフォロンの作品は、見る人を空想の旅へと連れ出してくれるとともに、この世界で起きているさまざまなことからへの気づきをもたらす、豊かなメッセージ性をももたえています。フォロンの没後20年、そして彼が生前に設立したフォロン財団の25周年を記念する本展は、絵画、彫刻、ポスターなどの多彩な作品約230点によって、そのあたたかく深遠な魅力をご紹介します。



《秘密》
1999年 ブロンズ
©photograph by Fernandez



《大天使》
2003年 水彩



《グリーンピース 深い 深いトラブル》
1988年 ポスター

* すべてフォロン財団蔵

©Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2024-2025

あべのハルカス美術館



【開館時間】

火～金： 10:00 - 20:00

月土日祝： 10:00 - 18:00

* 入館は閉館30分前まで

【休館日】

一部の月曜日、年末年始

展示替え期間(不定期)

* 展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-4 3

あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅 直上

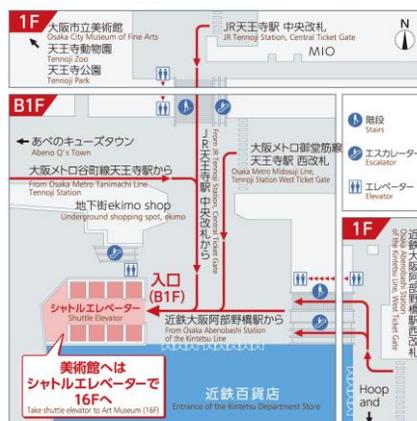
JR各線「天王寺」駅

Osaka Metro御堂筋線「天王寺」駅

Osaka Metro谷町線「天王寺」駅

阪堺上町線「天王寺駅前」駅 よりすぐ

【アクセス】



あべのハルカス美術館開館10周年記念特設ページ

<https://www.aham.jp/10th/>

以上